

令和元年度
全国学力・学習状況調査の結果と分析

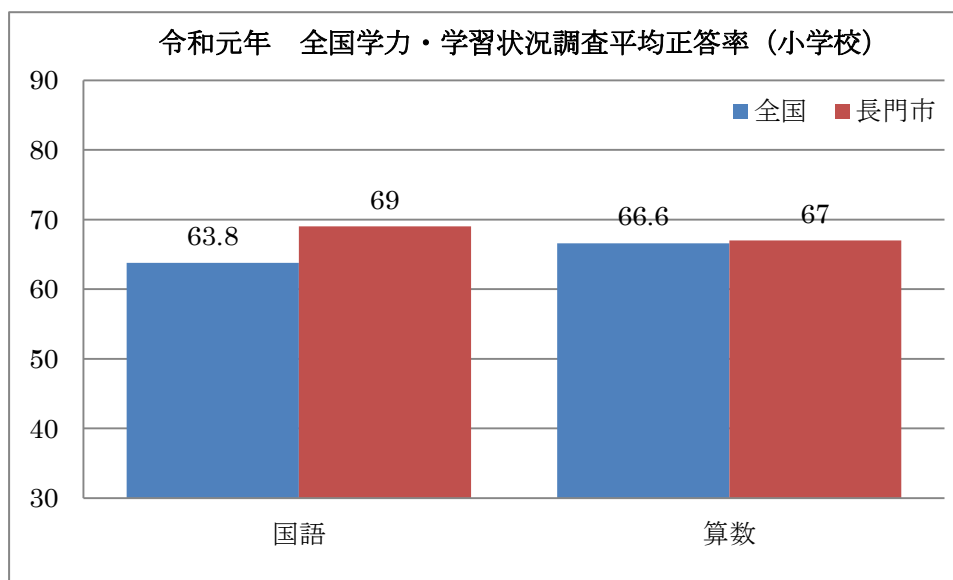
長門市教育委員会学校教育課

学力調査結果についての棒グラフの見方

- 調査対象は、小学6年生と中学3年生で、平成31年4月に実施。
- 学力調査結果は、全国と長門市の平均正答率を示している。

1 学力検査の結果（○：比較的よくできている点 ●：課題がある点）

（1）小学校



平成28年度から、すべての教科において、全国平均を上回っている。令和元年度においては、国語科において大きく全国平均を上回った。

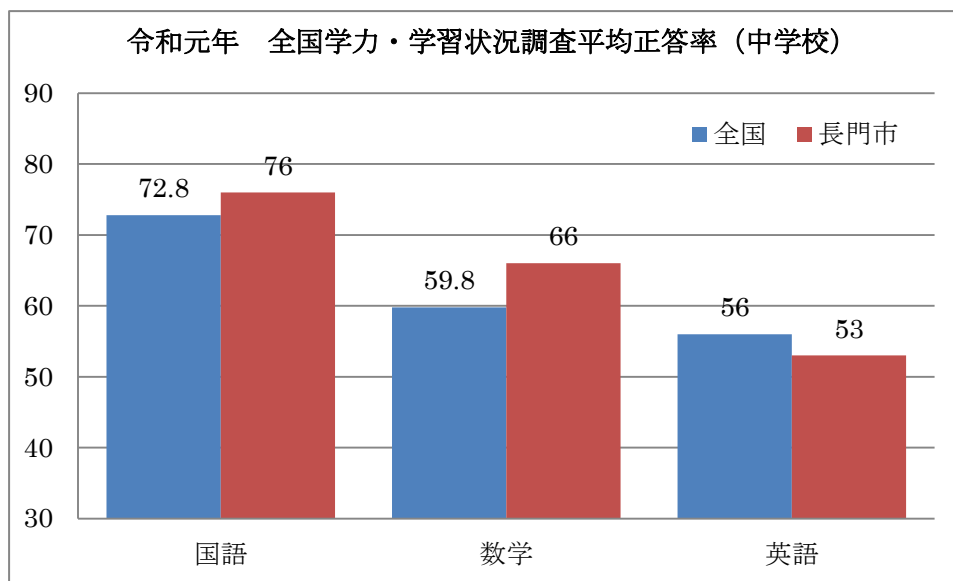
【国語科】

- 目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む。
- 情報を相手に分かりやすく伝えるための、記述の仕方の工夫を捉える。
- 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。

【算数科】

- 棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる。
- 目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことができる。
- 示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる。
- 示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる。

(2) 中学校



令和元年度の調査では、国語科、数学科で全国平均を上回ったが、英語科において、全国平均を3ポイント下回った。

【国語科】

- 伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く。
- 書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する。
- 文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ。
- 封筒の書き方を理解して書く。

【数学科】

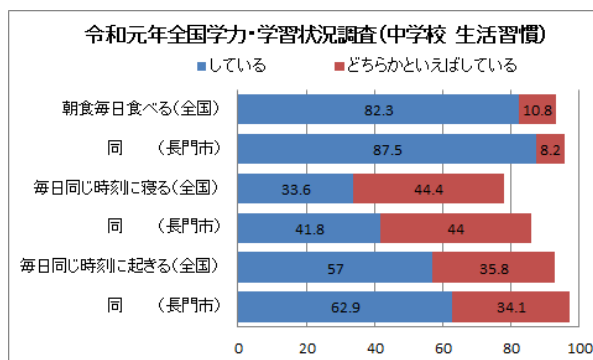
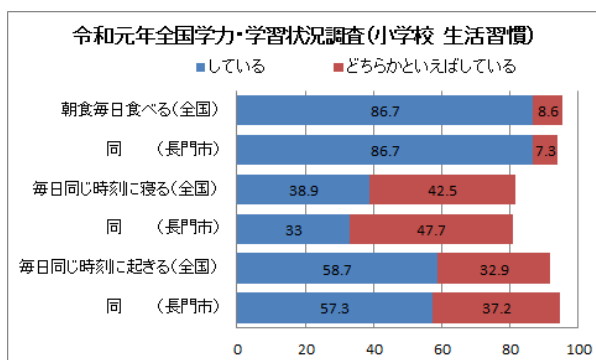
- 反例の意味を理解している。
- 平行移動の意味を理解している。
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。
- 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。

【英語科】

- 話と話の連結による音変化を捉えて、情報を正確に聞き取ることができる。
- まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解することができる。
- 聞いて把握した内容について、適切に応じることができる
- 書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などを捉えることができる。

2 児童・生徒質問紙集計結果 (○：良い点 ●：課題がある点 ◇：その他)

(1) 生活習慣

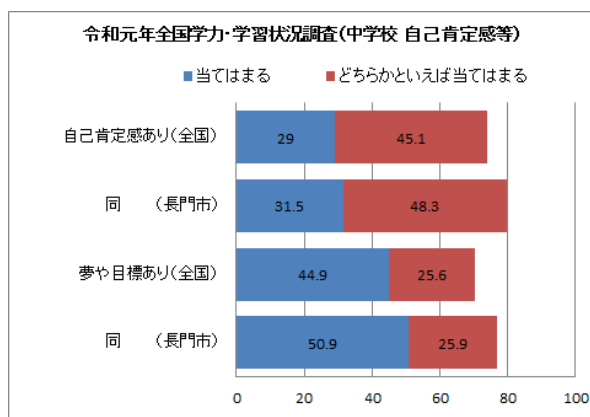
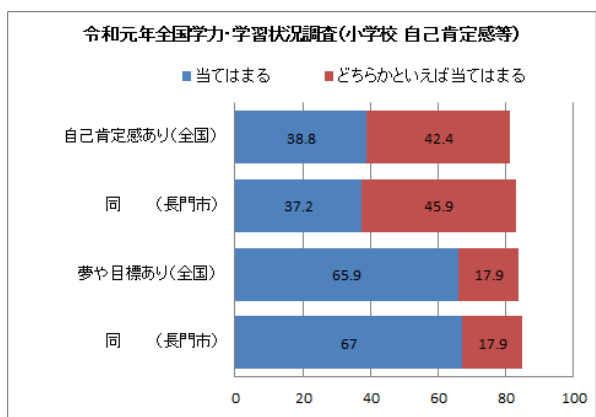


○朝食を毎日しっかりと食べている児童、生徒が多い。

○定刻に起床する児童、生徒の割合が高い。

●定刻に就寝する児童、生徒の割合がやや少ない。

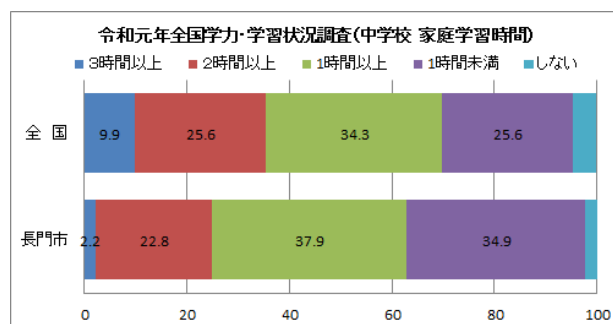
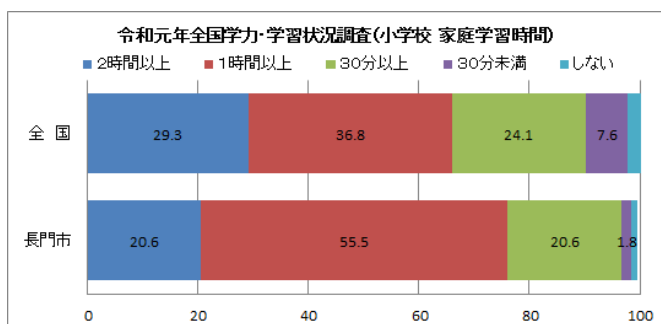
(2) 意識や経験



○自分にはよいところがあると思う児童・生徒が多い。

●中学校において、夢や目標をもつ生徒がやや少ない。

(3) 学習習慣

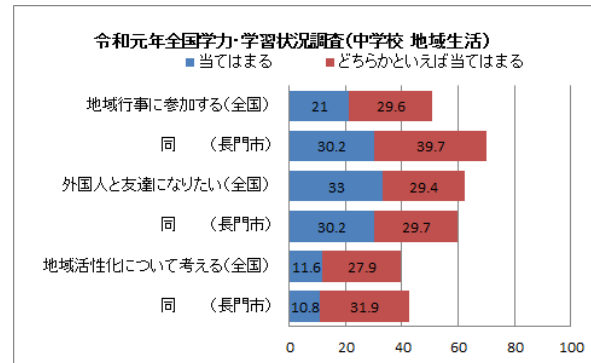
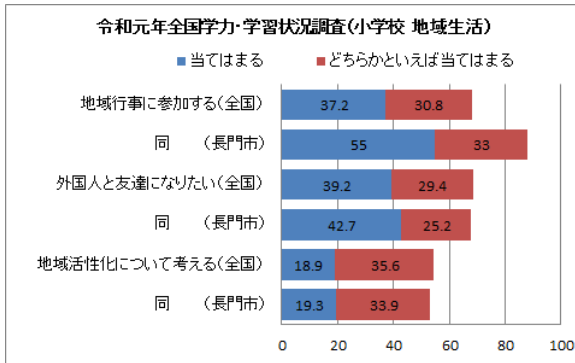


○小学校では、1時間以上(2時間以上を含む)、家庭学習を行っている児童の

割合が75%以上である。

- 小学校では、全く学習をしない児童は1.4%であり、中学校では2.2%である。
- 中学校では、2時間以上（3時間以上を含む）家庭学習をしている生徒の割合がやや少ない。

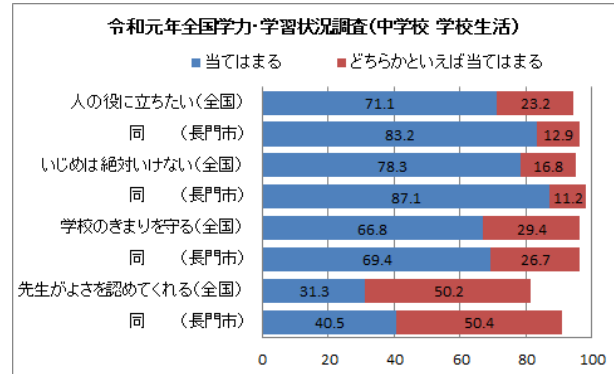
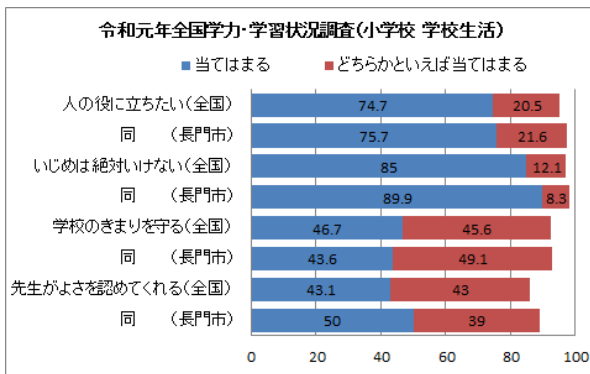
(4) 地域生活



○地域行事に、積極的に参加する児童、生徒がかなり多い。

- 外国人と友達になったり、外国のことについてもっとしったりしてみたいと思う児童、生徒がやや少ない。
- 地域や社会をよくするために、何をすべきか考える児童、生徒が少ない。

(5) 学校生活



○人の役に立ちたいと思っている児童、生徒の割合は高く、小学校・中学校ともに95%以上である。

○先生が自分のよさを認めてくれていると感じる児童、生徒は多い。

- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う児童、生徒の割合は高いが、100%ではない。

3 今年度の取組

(1) 学校での組織的な取組の推進

- 学校全体で成果と課題を共有し、管理職や学力担当を中心に組織的な動きをつくり、全校体制で学力向上を推進する。
- 年間2回実施する、市教委主催の「学力向上プラン検討会」において、全小・中学校での取組を検討し、各校のプランの見直し・改善を図る。
- みすゞ学園ごとに1名ほど先進校視察を行い、成果を生かした授業を行う。その成果を、市教委主催の研修会で共有し、市内の学校に実践を広めるとともに、小・中が連携しながら学力向上を推進する。
- 学校運営協議会で自校の結果の概要と今後の取組について確実に説明し、改善策を検討するとともに、家庭や地域との連携を図り、地域とともに学力向上に取り組む。

(2) 指導方法の工夫改善

- 各校に長門市がめざす「わかる・できる」授業像を明確に示し、校長会や研修会を通じて市内全教員に共通理解を図る。
- 指導主事の地区担当や外部講師による効果的な指導方法の普及を図る。
- 各校で実施した全国学力・学習状況調査の誤答分析を基に、国語科や算数科、数学科、英語科で「根拠について説明する（書く・話す）」指導の充実に重点を置き、指導方法の工夫改善を推進する。

(3) 学習環境の整備

- 学力向上推進リーダー、英語教育推進教員、小学校英語専科教員等が中心となり、小学校と中学校が連携した研修や交流を推進する。
- 子どもたちの状況に応じたきめ細かな指導体制づくりの推進や幼保・小・中の連携を充実させるためのカリキュラムづくりを推進する。

(4) 学習習慣の確立

- 家庭との連携を推進し、「家庭学習」を充実させるための手だてを各校で検討し学習習慣の定着を図る。
- 県が作成した問題を活用したり、良問に数多く取り組ませたりする等、家庭学習の充実を図る。
- 長門市全小・中学校での、28年度まで実施した生活習慣マネジメントサポート事業の取組を生かし、生活習慣の改善を図り、自主的な学習への取組を図る。

■調査問題・正答例・結果の詳細等については、下記HPをご覧ください。

- ・ [国立教育政策研修所 教育課程研究センター 「全国学力・学習状況調査」](#)
- ・ [山口県教育委員会 義務教育課 「全国学力・学習状況調査」](#)